

# ど の し た 淵

## 【区代議員会開催】

5月8日に(日)に代議員会が開催されました。

### 【区役員】

■館長 三腰修一 ■副館長 梅樹正義

■書記 三腰善行 ■会計 楠八重英雄が承認され

るとともに、令和3年度事業報告並びに決算。令和4年度事業計画(案)・予算(案)が執行部提案の通り承認・議決されました。

区費は前年同額の年額7,000円です。納付は会計さんが公民会予算の中からまとめて納めます。また今年度は集会所の清掃作業当番はありません。

## 【議会との意見交換会中止】

コロナ感染が治まらないため、今年度の意見交換会は中止となりました。新人・女性議員も誕生したので楽しみにしていたのですが残念でした。日頃から町政に対しての意見や要望があればどしどし提言してください。まずは関心を持つこと、地域振興に対する想いを抱くことから始めましょう。

今後、町長との座談会等も開催されると思います。単に要求・要望だけでなく、地域づくりに対する想いを伝える良い機会です。シニアグループはもろろんの事、地域振興の未来を担うヤングアダルトグループやウーマングループの積極的な参加をお願いいたします。

## 【公民館水道水質検査結果】

県の委託により鹿児島県環境技術協会が実施している水質調査結果(3月検査分)が送付されてきました。ほとんどの分析項目は基準値をクリアしていますが、井戸水や山水ではよくある一般細菌と大腸菌が検出されています。利用する際は煮沸してから飲用してください。

## 発行責任者

高峯公民会長  
三腰善行  
090-1089-9432  
令和4年6月1日発行



## 【町内一斉防災訓練・点検】

5月29日(日)町内一斉防災訓練・点検が実施されました。梅雨入りを前にいつどこで何が起こるか分からない現状に対処するために、公民会でも避難訓練に取り組みました。毎年同じ訓練ではありませんが、繰り返し行うことで、有事の際に忘れることなく自然と行動に移せるものと考えます。

**自助・共助・公助。**自らの命はまずは己から守ることが鉄則です。一瞬にして起こる災害の瞬間には自分一人しかいないのです。いかに身を守るか・避難するかは各個人がしっかりと意識し行動することが重要です。

災害発生時に役場や消防は初動として一次避難所の開設や、応急措置を行います。2次災害の危険性があるので、本格的に始動するのは状態が落ち着いてからになります。気象が悪化してから、災害が起きてからではなく、早めの行動を呼びかけているのはそのためです。誰か来てくれるだろう、助けてくれるだろうではなく、自ら身の安全を守るが大優先です。そのためには、日頃から動ける体力と避難行動を想定しインプットしていなければなりません。その時のために必要なことの一つが避難訓練です。同じことの繰り返しですがそれが大切なのです。

## たかね寺小屋く持続可能な地域づくり

### 【我が家の生ごみ処理器】

◆段ボールコンポストの作り方

#### 準備する物

- ① リンゴ箱程度の段ボール箱
- ② ピートモス
- ③ 燻炭(くんたん)
- ④ ガムテープ
- ⑤ はさみ or ナイフ
- ⑥ 補強用段ボール片

#### 作り方

- ① 箱の継部や底部の内外を補強する
- ② 箱の7〜8部目くらいまでピートモスと燻炭を6対4の割合で入れて混ぜる。(ピートモス・燻炭はホームセンターで売っています)
- ③ 箱上部を閉め、布(タオルなど)を被せ紐で縛る。(保温・防虫のため)

あとは生ごみを投入して攪拌するだけ

#### 注意事項

- ① 生ごみの水切りをする
- ② 段ボールを長持ちさせるためには、箱の補強をしたほうが良い
- ③ 1日1回は必ず混ぜる(熱拡散のため)



## 【水力発電竣工式に出席】

かねてより建設中だった「泊野川水力発電所」の竣工式典が4月25日(月)挙行され出席しました。この発電所は轟滝上流から水を取り入れ、約1,400m下流まで誘水し水車を流し込み、その落差によりタービンを回し発電するものです。水車はオーストリア製のペルトン水車で、発電機は5トンの重さがあるそうです。事業者は『みずいる電力株式会社』。令和元年6月に設立された会社で、出資者は太陽ガス(株)・日本ガス(株)・(株)後設計・(株)水力開発コンサルタントです。総事業費は約8億円。年間発電量約2百40万kwh(一般家庭約650世帯分)の発電が可能で、発電した電力は九電に売電されます。泊野の世帯に配電される訳ではありません。(あたりまえですが、チョット残念(ー)〜)

しかし、当該会社は地域貢献も唱えておられるので、さららの里公園の電気料の賄いについてご相談しているところです。

みずいる電力担当者の及川(おいかわ)さんによれば見学会も可能とのことなので区や公民会、親子会などで肝いつてみてはどうでしょうか。



## 【体協・社協理事会開催】

5月25日(水)標記理事会在開催されました。体協については、ここ数年コロナ禍で各種スポーツ行事が中止となり余剰金が多額(100万強)に及んでおります。その分を予備費・繰越として予算計上されていますが、区民の健康増進のためのニュースポーツ用品購入に充てるということです。今、盛んにグラウンドゴルフが行われていますが、雨天時でも屋内で気軽に誰でも取り組める道具があれば、サロン等で活用できると思います。体協はスポーツ大会に出場することだけが目的ではありません。スポーツ・運動を通して住民の健康増進・親睦融和を図るための組織です。永らく運動会も開催されていませんが、従来堂に会し汗を流し交流を図る取り組みを工面すべきだと思えます。そこに体協を組織する意義があるのではないのでしょうか！

## 【届け出避難所登録】

町の指定避難所とは別に、自治公民館や集会所などを届出避難所として登録した場合、開設1回につき5千円が補助されます。また、避難が長期化した場合は、必要に応じて救援物資を支給されます。そこで、役場総務課危機管理係に問合せた所、土砂災害警戒区域のレッドゾーン以外であれば登録できるとのことでしたので、高峯公民館を登録しました。高峯公民館はイエローゾーンに一部かかっていますが、緊急やむを得ない場合で町指定避難所(体育館)への非難が困難な場合に、最終手段として開設せざるを得ないことも想定しての登録です。いつでも開設するわけではありませんが、有事の際には開設できる体制を整えておくべきだと思います。災害は起きないに越したことないですが、常日頃の危機管理意識・対応準備が必要です。雨季を前に今一度再認識するとともに周辺の危険度を確認しましょう。

## 編集後記 田の神やぶのついでに

自宅の花壇に今年も段ボールコンポスト産堆肥を散布したら、カボチャが芽生えてきました。町で実施している野菜作り講習会の教えを活かし、去年よりズンバイ実をつけさせることが出来たらしいなと思っています。カボチャは交配する事により結実します。自然界では交配の役目を蜂などがやってくれますが、蜂などがいなくなったら人工的に受粉を促す必要があります。雄花が雌花より先に咲くので、雄花の花粉を茶筒等を集めて乾燥材を入れ冷凍保存し、雌花が咲いたときに毛筆等で受粉(人工授粉)させるのだそうです。さつま町には県内で採れるほとんどの果樹が栽培されていて、隈元先生(野菜作り講習の果樹担当の先生)もビックリされていました。なぜかというと、受胎するにはある程度の寒さが必要で、さつま町の環境はその条件に適しているのだそうです。

そんなさつま町の特性を活かし、誰でも取り組める様々な果樹や野菜を少量多品目栽培し、インター付近で物販が出来れば張り合いになりませんか！栽培と言うよりも家庭菜園や庭先で実った果実・野菜をお裾分けする感覚での販売となれば、ムリなく取り組めるかもしれません。もちろんおいしいに越したことはないですが、多くの山里の実りをご堪能いただきたいものです。